

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

日清食品と
包括的な連携を開始
(米穀部)

4-5面

全農グループ会社探訪
全国農協食品株式会社
(広報・調査部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



日清食品と包括的な連携を開始

「安定的な原料米供給」「共同輸送」で食と農を応援

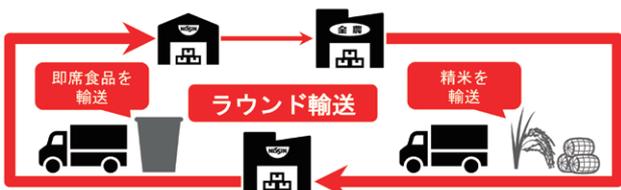
米穀部

全農は日清食品(株)と包括的な連携を開始しました。日清食品のカップライス製品の原料となる米穀をはじめとした国産農畜産物の中長期的な安定供給に関する取り組み体制を強化するとともに、原料米と日清食品のカップライス製品などの共同輸送を新たに開始します。

10月31日には東京・大手町のJ Aビルで高尾雅之常務理事、日清食品の深井雅裕取締役が出席し包括連携に係る調印式を行いました。式では日清食品カップライス製品の原料米の安定供給の強化や、全農の原料米と日清食品の製品の往復輸送を行うことを発表しました。

調印式で高尾常務は、「今回の取り組みをさらに充実・深化させ、今まで以上に生産者が安心して持続的に農業生産ができる環境を整備するとともに、国産農畜産物を安定的に消費者にお届けしていきたい」とあいさつしました。

調印式に参加した日清食品の深井取締役(右)と全農の高尾常務



ドライバーは全農の福岡工場から日清食品下関工場にカップライス原料の精米を納品後、同じトラックに即席食品を積み込み、福岡にある日清食品の倉庫に納品。横移動ゼロ化により、ドライバーの労働時間とCO₂排出量を低減します



「どきどき秋の収穫祭」にぎわう

生産者と消費者が直接つながる交流の場に

茨城県本部

茨城県本部は11月5日、いばらきコープ生活協同組合と共催で「届け！旬の味、いばらきの味!!どきどき秋の収穫祭2023」を開催しました。当日は約2700人の来場者でにぎわいました。

この取り組みは、来場者に地域農業の振興と国産国産運動について、理解を深めてもらうことをテーマに2014年から始まりました。今年初めて6月にも開

催し、年2回の実施としました。通算8回目となる今回は、県本部直営直売所のポケットファームどきどき茨城町店の敷地内に特設会場を設置。トラック市や模擬店の出店だけでなく、茨城県出身のシンガーソングライター磯山純氏のライブ、近隣学校吹奏楽部のライブパフォーマンス、SDGsクイズラリー、センサーに手のひらをかざして野菜の摂取量を測る「ベジチェック」のコンテストなどを行いました。

生産者が新鮮な野菜を直接販売しました



トラック市では、15台のトラックに39人の生産者が出店。生産者の顔を見ながら購入できるとあって、商品の特徴やおいしい食べ方などを聞く来場者も多く、生産者と消費者の交流の場となりました。

News!

「わくわくモーモースクール」で搾乳体験

酪農家が乳牛とヤギを連れて小学校を訪問

秋田県本部



柴田さん(左)に教わりながら搾乳を体験する児童

講師として酪農家の柴田睦さんと柴田瑞穂さん(農事組合法人新林牧場)が、乳牛とヤギを連れて小学校を訪れました。児童たちは指導を受けながら牛の搾乳や、ヤギに聴診器をあてて心音を聞くなどして触れ合いました。柴田さんは児童たちに「牛乳をたくさん飲んでください」と呼びかけました。

取り組みは、普段接することのない牛との触れ合いや搾乳体験を通じて、児童たちが命のぬくもりを感じ、酪農に関心を持ってもらおうと実施。今年も横手市の醍醐小学校に続き2回目の開催となります。

秋田県本部が事務局を務める秋田県牛乳普及協会は10月26日、由利本荘市の岩城小学校で「わくわくモーモースクール」を開催し、5・6年生が参加しました。

News!

2店舗で「やまゆりポーク視察研修会」

試食して生産者とシェフらが意見交換

神奈川県本部



意見交換をする「ルプティクラージュ」の和田政克オーナーシェフ(中央)とやまゆりポーク生産者ら

生産者は横浜市の飲食店「シエ・フルール横濱」「ルプティクラージュ」を訪れ、「やまゆりポーク」を使用したメニューを試食しました。飲食店からは「小学校の食育教室で知り、10年以上前に取り扱いを開始した」「価格と肉質をみて一番コストパフォーマンスが高い」などの評価をいただきました。研修会では、調理前の肉の状態を確認したり、顧客ニーズや生産現場の実情に関する質問が飛び交ったりと、活発な情報交換が行われました。

神奈川県本部が事務局を務めるやまゆりポーク生産者協議会は10月13日、「令和5年度やまゆりポーク視察研修会」を開催し、県の銘柄豚「やまゆりポーク」の生産者と取り扱い飲食店が情報交換を行いました。

News!

より明るく快適にリニューアルオープン

みのる食堂に続いて「みのりカフェ三越銀座店」

フードマーケット事業部



【住所】東京都中央区銀座4丁目6-16
銀座三越9F 銀座テラス
【営業時間】11:00~20:00
(L.O.FOOD19:00/DRINK 19:30)
※土日祝日は10:00~20:00

みのりカフェ
三越銀座店は
こちら



「みのる食堂三越銀座店」と併せ、お近くにお越しの際はぜひご利用ください。

「CLEAN & REFRESH」のコンセプトのもと、やさしい色合いのタイルや明るめの照明を使用し、店内も利用しやすいレイアウトに変更するなど全面改装しました。さらにSDGsの取り組みとして、既存内装古材の再利用や店内照明のLED照明への切り替えなども行いました。

全農は、11月15日直営飲食店舗「みのりカフェ三越銀座店」をリニューアルオープンしました。10月に改装した隣接の「みのる食堂三越銀座店」に続いてのリニューアルで、より明るく快適なひとときを提供します。

全農グループ 会社探訪

全国農協食品株式会社

全農グループのネットワーク生かし 生産者と消費者結ぶ総合食品会社に

全国農協食品(株)は、お客さまに旬を一番おいしく届けるため、さまざまなチャネルで農畜産物・加工品を販売しています。さらに全農グループのネットワークを生かした農畜産物などの販売、それらを使用した加工食品の製造・販売を通じて、多くのお客さまが健やかで豊かな食生活を楽しんでいただくことに貢献しています。

〔広報・調査部〕

冷食・直販・農産・
ニッポンエールを柱に

1974年10月、全農などの出資により、全国農協食品は誕生しました。生産者と消費者を結ぶ懸け橋として大きな期待を受け、給食・弁当事業をメイン事業としてスタート。84年には冷凍米飯の製造販売を開始しました。86年には市場を通さず産地から農畜産物を直接仕入れ、販売をする産直通信販売事業を開始し、日本郵政(株)の頒布会やJA食材

宅配事業の取り組みなどへ拡大しました。

2004年には乾椎茸・大豆・でんぶんなどを主に扱う全農タロップス(株)と合併し、冷凍食品・給食・直販・農産の4本柱を中心事業とする総合食品会社となりました。20年には全農のブランドである「ニッポンエール」の事業を開始し、現在は24年10月の創立50年を控え、次の時代に向けた新たな挑戦が始まっています。

多岐にわたる品目・事業
取引先の開拓も重点に

全農グループに属する事業会社は米、肉、青果などそれぞれの特定の品目に特化した事業を手掛けていることが多いですが、全国農協食品は特定の品目にとられない点が特徴です。事業フィールドが多岐にわたることも特徴であり、主なフィールドは四つです。

一つ目は日本郵政グループ・全農(経済連)・百貨店・通信販売社・マスメディア・インターネットなどを通じて総合食品(青果物・米・畜産物・加工食品など)、花きなどの通信販売を行い消費者に直接商品をお

直販事業



カタログやECサイトなどを通じて全国の“旬”をご案内

農産事業



国産にこだわり全国の高品質な大豆、でんぶん、乾椎茸、
その他農産加工品を仕入れ、販売を行う

ソリューション事業



チョコがけ菓子



農協牛乳を使用した商品



グミ

「私たちならではの付加価値」 消費者、取引先、生産者へ

代表取締役社長
金子 千久氏



当社の特徴は取扱品目が幅広いだけでなく、流通や商品の企画・開発、加工を一貫して手掛けていることによる販売チャネルの多彩さです。全ての事業に共通しているのは、「私たちならではの付加価値」を作ることです。その付加価値が消費者の皆さんや通信販売、外食、食品メーカーなどの取引先、農業や畜産を営む生産者の皆さんと関わる全ての方々に喜んでいただくということにつながると考えています。

当社は既存の考え方ややり方にとらわれない「しなやかさ」を強みに、これからも工夫を凝らして、これまでにない価値を生み出し続けていきます。

届ける「直販事業」です。二つ目は自社工場（関東工場）で生産した冷凍米飯やライスバーガー、全国の協力工場で製造委託した農畜産加工品を生協、外食産業などへ販売する「食品事業」。三つ目は生協、学校給食、食品メーカーなどへ大豆・でんぷん・乾椎茸、農産加工品などの食品の原料を販売する「農産事業」。そして四つ目が「ニッポンエール」商品などの開発・販売を行う「ソリューション事業」です。

また四つに加えて久喜事業所（埼玉県）では埼玉県久喜市・宮代町・加須市・蓮田市・白岡市・北本市・さいたま市の小中学校、幼稚園の給食受託事業を行っています。

冷凍加工食品の拡大に向け
すし・弁当企業を子会社化

コロナ禍によって冷凍加工食品の需要は拡大しており、今後冷凍野菜などを含めた冷凍食品の需要は安定的に拡大していくと考えられます。そこで23年9月に冷凍すし・弁当の製造・販売事業を手掛けている㈱ポラスター（石川県）を子会社化しました。現状はポラスターの製造能力が上限に達しているため、全国農協食品の製造インフラを活用して、ポラスター製品を製造・販売することにより、両社の事業規模の拡大を図ります。

食品事業



自社工場で製造する冷凍米飯・ライスバーガー

し、より付加価値の高い冷凍加工食品の開発を行うことや、ポラスターの既存取引先に対する自社製品の新規供給（ライスバーガーなど）を目指しています。

会社の概要（2023年3月31日現在）

- 本社所在地** 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-32-10 南新宿 SKビル 4F
- 事業内容** 農畜産物・水産物の加工・販売、調理食品・加工食品の製造・販売、給食事業、酒類の販売、米穀等の販売、農畜産物・加工食品および酒類の輸出事業、加工食品の輸入事業、生活用品の販売、太陽光等の再生可能エネルギーによる発電・売電事業など
- 売上高** 256億円(22年度) **設立年月日** 1974(昭和49)年10月1日
- 代表者** 代表取締役社長 金子 千久 **従業員数** 507人

全農食品
オンラインショップはこちら



JAタウン
ニッポンエールショップはこちら



公式ホームページはこちら

<http://www.zfc.co.jp/>



冷凍加工食品を製造している
関東工場(栃木県真岡市)

石川佳純さん（全農所属）監修のオリジナルカレー
「石川佳純カレー4食入り」を10名様にプレゼントします。

応募方法

2次元コードを読み取り、郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、全農グループ会社探訪の感想をご記入の上、ご応募ください。

締め切り

2023年12月1日(金)
23時59分

応募は
こちらから



※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。





地域農業への理解醸成へ

食農教育や体験型農園が好評

JAマインズは東京都の中央南部に位置する府中市・調布市・狛江市の3市を管内としています。管内は人口約57万人。大きなマンシヨンの隣に畑という光景も珍しくありません。JAでは、人口の多い管内で身近な存在である畑など地域の特徴を生かした取り組みを実施し、地域農業への理解醸成を進めています。



営農支援が必要な生産者の農作業を手伝うJA職員

営農支援事業で 農地保全、経営継続へ

農地の保全や農業経営の継続、生産性・所得の向上を目的に、高齢化、けがなどの健康問題などにより労働力不足の生産者に対して農作業の一部を受託する営農支援事業を実施しています。これからも生産者の時間的、労力的コストの削減を図り、継続的な営農支援を行っていきます。

食農教育事業が定着 未利用農地を有効活用

食農教育事業では2016年から各地区で年2回、「親子でアグリ」を実施し、これまで2200人以上に参加いただいています。ま



地域ボランティアの方が花摘みのコツをレクチャー

た、18年から地元の生産者と共に1年を通して「アグリ体験塾」を開催しています。これらの取り組みから地域住民の方々に農業の大変さ、収穫の喜びなどを伝えていきます。

また、花景観事業として未利用農地の有効活用に取り組み「ポピー花摘み体験事業」を実施しています。

JAマインズ (東京都)



都市農地貸借円滑化法 を利用した体験型農園

約20年続いた体験型農園が22年に一度閉園となりましたが、利用者から「JAの力を利用して体験農園を継続したい」という強い要望があり、JAで初めてとなる都市農地貸借円滑化法を利用した体験型農園「とも畑」を23年4月に開園しました。旧体験型農園の利用者7割以上から申し込みがあり、野菜作りに利用され、将来の援農ボランティアや新規就農者の育成につながっています。

女性組織基盤強化へ W-minds

女性組織基盤強化のため、



地域の農産物を販売するW-mindsのメンバーら

20年に発足された女性生産者の組織は、ウーマンとマインズをかけ、「おいしい野菜を消費者へ」の意味を込めて「W-minds」と命名し、ロゴマークを作成しました。即売会などに積極的に参加するなどますますの活躍が期待されています。

概要	2023年3月31日現在
正組合員数	2099人
准組合員数	1万4347人
職員数	299人
販売品販売・取扱高	4億8千万円
購買品供給高	3億3千万円
貯金残高	3890億9千万円
長期共済保有高	5781億8千万円
主な農畜産物	キャベツ、トマト、エダマメ

JA
ズーム
イン

持続可能な地域農業の実現へ

これからも組合員とともに

1993年に広島市域のJAが合併し誕生したJA広島市は、今年30周年を迎えました。広島市の都市部から県境の山間部まで広域なエリアで、「農業と生活設計におけるアドバイスとサポート」という事業を通じ、地域の暮らしに確かさと彩りをつくる」ことを理念としています。

SNSを活用した効果的な情報発信

JAが取り組む「持続可能な地域農業の実現」の実践



食と農に触れるさまざまなイベント

策として、2022年に「JA広島市営農情報LINE公式アカウント」を開設しました。水稲の生育時期には、「稲作特別情報」として管内18地区の定点圃場^{ほじょう}を調査し、ウンカ・病害虫の発生状況など営農に役立つ情報などをタイムリーに発信しています。

JA直営産直市「農彩館五日市市ファーマーズマーケット」と「農彩館 矢野とれとれ市場」では利用者参加型のイベントも開催。地元の農畜産物を身近に感じてもらえる取り組みを通じて、消費者に産地地消を推進しています。また、Instagramを開設し、イベントや旬の農畜産物、お買い得品の情報を発

信するなどファンの定着化を図っています。

広島を代表する冬の味覚 特産「広島菜漬」

広島¹の味覚を代表する特産物「広島菜漬」。県内外から贈答用として重宝されて



最大の産地の川内地区で栽培される広島菜

JA広島市 (広島県)



います。原菜の「広島菜」は川内地区で代々受け継がれてきた伝統野菜です。地域の宅地化が進むなか、その灯を消さないために若手後継者が立ち上がり、まだ若いうちに収穫する「ミニ広島菜」を商品化するなど、「広島菜」の認知度向上や消費拡大に向け意欲的に取り組んでいます。

広島菜漬の商品



近年の社会情勢の変化により、生産資材の高止まりが続く、組合員の農業経営に大きな影響を与えていることを考慮し、昨年を引き続き、「資材高騰に伴う支援策」を実施し、肥料・農薬、出荷用資材、飼料の供給額に応じた助成を行っています。

また、耕作放棄地の解消・遊休農地の活用による新たなブランドづくりに取り組んでおり、小豆栽培の産地化や個人農業者向けの税務セミナー・個別相談会による経営支援を強化。持続可能な地域農業の実現に向けて取り組んでいます。

概要	2023年3月31日現在
正組合員数	1万3723人
准組合員数	10万5984人
職員数	674人
販売品取扱高	37億4千万円
購買品取扱高	39億円
貯金残高	6343億6千万円
長期共済保有高	9844億2千万円
主な農畜産物	米、卵、広島菜、小松菜、 ホウレンソウ、トマト、ミズナ、 青ネギ、エダマメ

「旬鮮倶楽部」申し込み受け付け中 2024年度も頒布会カタログで日本の農業を応援

全農は2024年4月から25年3月まで、北海道から沖縄まで全国各地の旬の果物を中心に、毎月産地直送の商品をお届けする頒布会カタログ事業「旬鮮倶楽部」に取り組んでいます。

【くらし支援部】

24年度は、日本各地の名店の味を集めた「行列のできるラーメン特集」や、WEBアンケート調査で集めたお客さまのご意見を反映した「お買得商品」などを用意しています。小分け包装した商品もあり、少人数世帯の方でも安心してご注文いただけます。頑張る自分へのご褒美に、日本

全国の珍しい果物などを選んでみてはいかがでしょうか。

また、母の日・父の日、クリスマス、お中元など季節ごとの歳時企画も実施しています。複数の配達指定も可能ですので、いつもお世話になっている方々へ、感謝の気持ちを伝える方法としてご利用ください。

24年度のご注文は、24年1月末まで全国のJA窓口、Aコープで受け付けており、商品は4月からお届けします。詳細やご不明点は、各県的全農生活事業担当部署までお問い合わせください。



2024年度のカタログ
※一部取り扱いのないJAもあります。

「フローズンヨーグルト とちあいか」を発売

メイトー×ニッポンエール 11月21日からファミリーマートで

全農は、(株)ファミリーマートとの協業の一環として、全農グループである協同乳業(株)を販売者としたメイトー×ニッポンエール「フローズンヨーグルト とちあいか」を、全国のファミリーマート(約1万6500店舗)で11月21日から限定販売します。

【園芸部・営業開発部・栃木県本部】

“甘いものが食べたいけれど、カロリーは抑えたい”というニーズに応えた協同乳業の人気商品であるフローズン

ヨーグルトに、栃木県本部が供給した栃木県産イチゴ「とちあいか」の果肉と果汁を加え、おいしくヘルシーに仕上げました。協同乳業独自の技術を生かして作り上げた、程よい酸味が特長の生きた乳酸菌入りの自家製ヨーグルトです。

今後も、ファミリーマートと連携し、特色を生かした協業を通じて、魅力的な国産農畜産物の訴求と販売拡大に取り組んでまいります。



11月21日から限定発売する
「フローズンヨーグルト とちあいか」

JA全農の産地直送通販サイト
JAタウン ショップ紹介

ぎふ JAめぐみのマルシェ

「特選品ほらどキウイ」は、1979年に栽培が始まった岐阜県関市洞戸地域産のキウイフルーツです。昼と夜の寒暖差が大きい山間部の地形を生かし、糖度が高く上品な甘みと程よい酸味が特徴のキウイフルーツが生産されています。

お届けする「ハイワード」という品種は、果肉が鮮やかな緑色で果汁たっぷり。キウイ本来の甘酸っぱさとプチプチとした種の食感、そして口いっぱい広がる爽やかな香りを楽しむことができます。



数量限定 特選品ほらどキウイ岐阜県産約1kg(9玉入り)……3280円(税込み)

ご注文はこちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com